産婦が自己の「産む力」認識し発揮できるための助産師の関わり
—分娩期における自己の看護実践の分析—

長友千晴（応用看護学）

【キーワーズ】 産婦，産む力，認識，分娩の3要素，助産師の関わり

【研究の目的】

産婦が自己の「産む力」を認識し，その力を発揮できるために，助産師は産婦の何をどのように観察し，判断しながら関われば良いのかを明らかにし，看護の方向性を見い出す。

【用語の定義】

「産む力」：個々の産婦のもつ分娩の３要素（産道・娩出力・娩出物）が正常に機能し，分娩を有効に進める力。

【研究対象】

研究者との関わりにより，産婦が自己の「産む力」を認識し発揮できた看護過程。

【研究方法】

1．研究者が関わった事例の中から，目的に沿った6事例７場面を選択し，研究素材とした。

2．「産婦の状況」，「助産師の観察（分娩の3要素）（こころ）（社会関係）」，「助産師の思考・判断」，「助産師の実践」からなる素材フォーマットを作成し，各事例における助産師の関わりの特徴を見い出す。

3．２．を概観し，＜助産師の捉えた事＞，＜助産師の判断＞，＜助産師の実践＞，＜産婦の反応＞の項目に沿って図式化し，助産師のどのような関わりが産婦の「産む力」を発揮するに至ったのか，看護実践の流れを明らかにした。

4．３．を概観し，各事例から＜産婦の「産む力」を阻害していたもの＞，＜阻害因子の意味付け（分娩の3要素への悪影響）＞，＜産婦の「産む力」を発揮させるために助産師が行った事と産婦の変化＞，＜産婦が自己の「産む力」を認識した事による分娩の3要素の変化＞，＜産婦がどこの段階で，どのように自分の「産む力」を認識し発揮できたか＞の項目から助産師がどこに着目し，どう判断し，どう関わったのかを導き出した。

5．４．を概観し，産婦が「産む力」を発揮するために，＜助産師は産婦の何を捉えたのか＞，＜捉えた事のアセスメント＞，＜分娩の３要素への影響＞の項目から全事例より共通性を導き出した。更に，その共通性を各事例に当てはめ，＜産婦の「産む力」を発揮させるための助産師の実践＞となっていたか，その意味を見い出した。

【結果】

「産婦が自己の『産む力』を認識し，発揮できるための看護の方向性」を以下のように見出した。

1．産婦の身体感覚及びその反応と分娩進行の状況から，産婦の「こころ」「からだ」「社会」がどのように影響し合っているのか観察，判断し，産婦が現状をどう感じているか，その気持ちを確認する。

2．産婦のあるがままの姿を肯定的に捉えた上で，産婦の分娩の３要素を阻害しているものは何か，そして，それを排除する方法は何かを探る。

3．産婦が自分に起こっている事の意味を理解できるよう，個々の産婦に合った情報を届け，反応を確認しながら「産む力」を発揮できる方法を提示し，共に実践する。

4．産婦の側に居て，個々の産婦に合った「産む力」を発揮する方法を手助けしつつ，反応を観察し励ます。

5．産婦の「産む力」が発揮されるために家族の思いを汲み取ったり，協力を得ながら，家族も分娩に参加してもらう。

6．産婦の変化や反応に対して抱いた助産師の素直な気持ちを表現し，産婦との会話を豊かに行い，両者の気持ちがほぐれる空気をつくる。